【検討単語の確定について】2021年度 第3回本委員会　【結果の記入方法】創作手話…◎　合成手話…○　組み合わせ…●　アレンジ…ア　保存手話…保　ラベル追加…△　検討不可…×

	単語：読み方	意味、解説（『百人一首大辞典』など）	参考	各班	結果	表現の仕方	本委員会結果	検討経緯
1	歌人（かじん）	歌をよむ人。	学校の手話―68	北海道		参考の通り	● 組み合わせ	９班の案を見ると、２動作目が＜人＞＜男＞に分かれている。「人」というよりは個人を意味するので＜男＞が合う。女性の歌人もいるので、状況に合わせて＜男＞＜女＞を使えばよい。 **⇒＜短歌＞＋＜男＞（女性の場合は＜女＞で表現）** **※北信越、中国、四国、九州班の案を採用**
				東北	○	和歌 ＋ 書く ＋ 人		
				関東	◎	口元の端に２指をあてる ＋ 空書「人」		
				北信越	保	和歌 ＋ 人(テキスト通り…男)		
				東海	●	左手を口に当て、右手で文字を書く仕草の後、「人」を書く		
				近畿	×	学校の手話でＯＫ		
				中国		学校の手話96と同じ手話　＋　男		
				四国	●	/和歌/　＋　/人/		
				九州		口元の端に２指をあてる ＋ 空書「人」 （動画では、学校の手話と同じとなっている）		
2	和歌（わか）	中国の漢詩に対する日本の歌のよび方で、「やまとうた」などといわれる。	学校の手話―96	北海道		参考の通り	△ ラベル追加	９班の案を見ると、標準手話の＜和歌＞と口元の端に２指をあてる表現に分かれているが、今ある手話を採用することに。 **⇒＜短歌＞と同じ** **※北海道、東北、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州班の案を採用**
				東北	○	和歌 ＋ 書く		
				関東	○	口元の端に２指をあてる		
				北信越	保	(テキスト通り)		
				東海	●	左手を口に当て、右手で文字を書く仕草		
				近畿	×	学校の手話でＯＫ		
				中国	●	学校の手話68　そのままで良い		
				四国	×	/和歌/　　（Ⅱ-１４３）		
				九州		口元の端に2指をあてる(動画では学校の手話と同じ)		
3	和歌集（わかしゅう）	和歌を集めた本。		北海道	●	和歌 ＋ 本	● 組み合わせ	９班の案を見ると、「集」の表現が＜本＞＜集める＞に分かれている。意味を考慮すると＜まとめる＞が合うとの意見もあり、意見が分かれた。採決の結果＜まとめる＞の案を採用することに。 **⇒＜短歌・和歌＞＋＜まとめる＞** **※班の案を採用なし**
				東北	○	和歌 ＋ 本		
				関東	●	「和歌」＋「集める」（指先下向きで）		
				北信越	保	和歌 ＋ 集める		
				東海	●	左手を口に当て、右手で文字を書く仕草の後、「本」		
				近畿	●	「№２の和歌」＋本		
				中国	●	和歌の手話　＋　本		
				四国	●	/和歌/　＋　/本/		
				九州		「和歌」＋「集める」（指先下向きで）		
4	勅撰和歌集（ちょくせんわかしゅう）	天皇や上皇の命令によって選ばれた和歌集。		北海道	●	天皇＋(左手札を持つ手から)選ぶ ＋ 本	● 組み合わせ	９班の案を見ると、「天皇＋選ぶ」「賜る」「天皇＋命令」「天皇から命を受ける」など複数ある。「命令」ではなく「選ぶ」で意味は伝わるのではないかと、意見が分かれた。 **⇒＜天皇（天皇陛下）・皇位＞＋右手＜選ぶ・選抜B・選択＞＋＜和歌集＞（短歌・和歌＋まとめる）** **※北海道、東海班の案を参考**
				東北	○	もらう ＋ 和歌 ＋ 書く		
				関東	ア	人差指を上から顔に向けて動かす(任命される) ＋「和歌集」		
				北信越	○	天皇皇后 ＋ 命令 ＋ 和歌		
				東海	●	「天皇」＋「選ぶ」＋ 同上		
				近畿	○	上から「命令」＋「№３の和歌集」		
				中国	●	天皇＋選ぶ＋和歌＋本		
				四国	●	/天皇/　＋　/指名される/　＋　/和歌/　＋　/本/		
				九州		人差指を上から顔に向けて動かす（任命される）＋「和歌集」		
5	飛鳥（時代）（あすか じだい）	奈良盆地南部の飛鳥地方を都とした推古朝前後の時代。 （広辞苑第６版）		北海道	ア	両掌を前に向け親指をつけ鳥 ＋ 時代	保 保存手話	９班の案を見ると、羽をばたつかせる動作、そのまま斜めに上げる動作、聖徳太子がしゃもじを持つ動作、髪型の特徴などが見られるが、検討した結果奈良県で以前から使われている表現を採用することに。 （羽をばたつかせない） **⇒親指を交差させた両手をそのまま斜め上へ上げる** **※四国班の案を採用**
				東北	ア	みずら髪のしぐさ		
				関東	保	両手の親指を組んで４指を羽ばたかせる ＋「時代」		
				北信越	◎	笏(しゃもじのような細長い板)を持つ仕草(聖徳太子がいつも持つ板)		
				東海	●	飛ぶ ＋「時代」		
				近畿	●	両手を羽根を広げた鳥のようにして２回上へはばたく		
				中国	●	飛んでる＋時代		
				四国	●	/鳥が飛ぶ様子（奈良の手話より）/　＋　/時代/		
				九州		両手の親指を組んで４指を羽ばたかせる ＋「時代」		
6	平安（時代）（へいあん じだい）	桓武天皇の平安遷都から鎌倉幕府の成立まで約400年の間、政権の中心が平安京（京都）にあった時代。 （広辞苑第６版）	学校の手話－352	北海道		参考の通り	ア● アレンジとの組み合わせ	９班の案を見ると、だいたい同じ表現。 ２動作目、標準手話は指先を向き合わせ、『学校の手話』は、指先は前向き。標準手話を採用するかどうか意見が割れたが、『学校の手話』の表現を採用することに。 **⇒＜安定＞＋指先斜め前向きで＜安全＞（学校の手話－352の動作）** **※班の案の採用なし（指先の向き）**
				東北	●	平 ＋ 安心		
				関東	保	「平」両手を左右に引き離す ＋「安心」＋「時代」		
				北信越	○	平 ＋ 安 ＋ 時代		
				東海	●	両手で「平」の後、「安心」		
				近畿	ア	「平成」＋「安全」		
				中国	●	学校の手話352手話　＋　時代		
				四国	●	/平/　＋　/安心/　＋　/時代/　（学校の手話より）		
				九州		「平」両手を左右に引き離す ＋「安心」＋「時代」 （学校の手話）		
7	鎌倉（時代）（かまくら じだい）	源頼朝が鎌倉に幕府を開いてから、1333年（元弘3）北条高時の滅亡に至るまで約150年間の称。 （広辞苑第６版）	学校の手話－355	北海道		参考の通り	保 保存手話	９班の案を見ると、ほとんどが鎌で刈る動作。大仏の表現もあり、なるほど。 神奈川県鎌倉市の表現は、２回刈る動作だが、１回にするか。２回にするか検討した結果、シンプルに１回とすることに。 **⇒左手拳の下で、鎌で刈るように人差指を曲げた右手を動かす（１回）** **※北海道、東北、関東、四国、九州班の案を採用**
				東北	●	鎌（グー）＋ 動く		
				関東	保	「鎌倉」稲を鎌（右手「ヌ」）で刈取る ＋「時代」		
				北信越	保	(テキスト通り)		
				東海	◎	両手を丸にし、お腹に当てる(鎌倉大仏)		
				近畿	●	「鎌」＋「倉」		
				中国	●	学校の手話355手話　＋　時代		
				四国	●	/鎌/　＋　/時代/　（学校の手話より）		
				九州		「鎌倉」稲を鎌（右手「ヌ」）で刈取る ＋「時代」		

8	むろまち じだい 室町（時代）	足利氏が政権を握り京都室町に幕府を開いた時代。 （広辞苑第６版）	学校の手話－356	北海道		参考の通り	● 組み合わせ	９班の案を見ると、 ＜部屋・〇〇室＞＋＜町＞の案が多いが、＜町＞の表現が微妙に違う。 「室」…京都の御室にろう学校がある。「御室」＝「部屋」の表現を採用することに。 「町」…左から右へ若干手首を返しながら指先を２回（わたしたちの手話）あてるか、３回（学習辞典Ⅰ・学校の手話）あてるか？で意見が分かれた。 また、手首を返さない案もあるが、どうするか検討。 **⇒＜部屋・〇〇室＞＋＜町（わ2－20）＞（若干手首を 返しながら２回）** **※東北班の案を採用**
				東北	●	部屋 ＋ 町		
				関東	●	「部屋」＋「町」＋「時代」		
				北信越	保	（テキスト通り）		
				東海	●	「部屋」＋「町」		
				近畿	●	「ム」＋「ロ」＋「町」		
				中国	●	学校の手話70手話 ＋ 時代		
				四国	●	/部屋/ ＋ /町/ ＋ /時代/（学校の手話より）		
				九州		「部屋」＋「町」＋「時代」		
9	ちょうてい 朝廷	天皇が政治を行うところ。	学校の手話－351	北海道		参考の通り	＜省＞ 保存手話 ＜朝廷＞ ● 組み合わせ	９班の案を見ると、２動作目が「政治」「指示する」「省」など複数ある。 「省」は標準手話の単独ラベルがなかったので確定することに。 ＜省＞ **⇒＜厚生労働省（2004－18）＞などの「省」** ＜朝廷＞ **⇒＜天皇（天皇陛下）・皇位＞＋＜省＞＋＜場所＞ （「天皇」の標準手話は右手だけを上げる）** **※北海道、東北、東海、近畿、中国、四国、九州班の案を採用**
				東北	●	王 ＋ 官 ＋ 所		
				関東	●	「天皇」＋「指示する」＋「場所」		
				北信越	◎	天皇 ＋ 政治(立てた手は５本指) ＋ 場所		
				東海	●	「天皇」＋「政府」＋「場所」		
				近畿		学校の手話の「天皇」部分を正しく表現、あとはＯＫ		
				中国		そのままでよい		
				四国	●	/天皇/ ＋ /省/ ＋ /場所/ （学校の手話より）		
				九州		「天皇」＋「指示する」＋「場所」 （動画では学校の手話となっている）		
10	かんし 漢詩	中国の古典詩。一句四言・五言または七言を主とし、平仄（ひょうそく）・押韻などの規則があり、古詩・楽府（がふ）・絶句・律詩・排律などの種類がある。 （広辞苑第６版）	学校の手話－70	北海道		参考の通り	ア● アレンジとの 組み合わせ	９班の案を見ると、２動作目の表現が、文字を書く動作と＜詩＞に分かれる。 中国の古典詩のことなので、標準手話の＜詩＞を使うことに。 **⇒＜漢字＞の１動作目＋＜詩＞** **※北海道、東海、近畿、四国班の案を採用**
				東北	●	漢字 ＋ 書く		
				関東	保	「漢字」左掌に５指を曲げた右手甲を２回つける ＋ 右手「シ」を口元につけて手首返しながら前に出す		
				北信越	◎	漢字の「漢」＋ 文字を縦書き		
				東海	○	「漢字」＋ 左手で指文字「し」＋ 右手で文字を書く仕草		
				近畿	ア	「漢字」の最初の表現 ＋「詩」		
				中国	●	漢字 ＋ 書く		
				四国	●	/漢字/ ＋ /左手指文字「し」＋ /右手 書く/「詩」（学校の手話より）		
				九州		「漢字」左掌に５指を曲げた右手甲を２回つける ＋ 右手「シ」を口元につけて手首返しながら前に出す		
11	おん 音	標準手話なし 音節を数える語。「五十音順」など。 節の下が単語。その下に来る音のことです。 言葉を構成する、一つ一つのおとを数えるのに用いる。「俳句は5・7・5の17音からなる」など。 （goo国語辞書） ＜音(おと)＞、の手話はあるが、文字の場合は表現が異なるか検討してください。		北海道	△	「声」にラベル追加	△ ラベル追加	９班の案を見ると、「声」、指文字など複数案がある。 今ある手話を使えないか？も含めて検討。 **⇒＜音（おと）＞と同じ （２指で輪を作った右手指先を耳に近づける）** **※班の案の採用なし**
				東北	◎	「お」指文字（左） ＋ 点(同時性)		
				関東	◎	人差指で上から下へ波線を書く		
				北信越	○	指文字の「お」で〇〇と表す		
				東海	●	左手の人差し指と親指を広げ、右手の人差し指と親指を狭くして、前に出す		
				近畿	ア	「声」の表現を小さく表現		
				中国		指文字		
				四国	●	指文字「お」「ん」		
				九州		人差指で上から下へ波線を書く		
12	ごおん 五音	五音、七音はリズムのある音の数のこと。 五音、七音のまとまりのことを「句」という。		北海道	●	「５」＋「声」	○ 合成	９班の案を見ると、「５」と「音（おん）」についてそれぞれの案とを組み合わせている。 **⇒左手＜５＞と右手＜音(おと)・音(おん)＞の合成** **※班の案の採用なし**
				東北	◎	「５」（左） ＋ 点(同時性)		
				関東	●	数字「５」＋「音」		
				北信越	○	５ ＋ 〇〇(縦に並べて表現)		
				東海	●	左手で「５」、右手の人差し指と親指を広げる		
				近畿	ア	「五」＋「№11の音」		
				中国		五 ＋ おん		
				四国	●	/５/ ＋ 指文字「お」「ん」		
				九州		数字「５」＋「音」		
13	しちおん 七音	五音、七音はリズムのある音の数のこと。 五音、七音のまとまりのことを「句」という。		北海道	●	「７」＋「声」	○ 合成	９班の案を見ると、「７」と「音（おん）」についてそれぞれの案とを組み合わせている。 **⇒左手＜７＞と右手＜音(おと)・音(おん)＞の合成** **※班の案の採用なし**
				東北	◎	「７」（左） ＋ 点(同時性)		
				関東	●	数字「７」＋「音」		
				北信越	○	７＋ 〇〇(縦に並べて表現)		
				東海	●	左手で「７」、右手の人差し指と親指を広げる		
				近畿	ア	「七」＋「№11の音」		
				中国		七 ＋ おん		
				四国	●	/７/ ＋ 指文字「お」「ん」		
				九州		数字「７」＋「音」		
14	く 句	『新しい手話2015』－74 に標準手話あり。 そのままとするか、新しい表現を加えるかご検討ください。		北海道	ア	左手札を持つ手に「句」を３回置く	そのまま	９班の案を見ると、標準手話のままでよいとしているため変更なしとするため、動画は出さない。
				東北	●	単語		
				関東	◎	左掌に曲げた右手親指と人差指の指先を付ける		
				北信越	○	（テキスト通り）		
				東海	●	左手の人差し指と親指を広げる		
				近畿	◎	Ａ：標準手話の通り、Ｂ：詩を書くしぐさ		
				中国		そのままで良い		
				四国	×	２０１５－７４		
				九州		左掌に曲げた右手親指と人差指の指先を付ける		

15	かみ く **上の句**	言葉や文を形作るための区切りで、５・７・５の部分 （百人一首：基本単語）		北海道	●	上、上手 ＋ 句	○ 合成	９班の案を見ると、「上」＋「句」の案が多いがちょっと意味が伝わりにくいのではないか？ 北信越班の左手を添える案（五七五七七の意味）が分かりやすい。 「上」の表現は複数あるが、どれが使いやすいか検討。 **⇒指を広げ親指を上にした左手の横で、右手＜上Ｃ＞（漢字の形）＋左手残したまま＜句＞** **※北信越班の案を参考**
				東北	●	上 ＋ 単語		
				関東	●	「上」＋「句」		
				北信越	○	左手は５本指(五七五七七の五行の意味) ＋ 上の３本の隣で「句」を表す		
				東海	●	両手の人差し指と親指を広げて両手を重ね、上の手を前に出す		
				近畿	◎	「上」＋「№14のＢ　句」		
				中国	○	句 ＋ 上		
				四国	●	/上/　＋　/句/		
				九州		「上」＋「句」		
16	しも く **下の句**	言葉や文を形作るための区切りで、７・７の部分 （百人一首：基本単語）		北海道	●	下、下手 ＋ 句	○ 合成	９班の案を見ると、「下」＋「句」の案が多いがちょっと意味が伝わりにくいのではないか？ 北信越班の左手を添える案（五七五七七の意味）が分かりやすい。 「上の句」は、＜上Ｃ＞（漢字の形）を使ったので、同様に＜下Ｃ＞を使うことに。 **⇒指を広げ親指を上にした左手の横で、右手＜下Ｃ＞（漢字の形）＋左手残したまま＜句＞** **※北信越班の案を参考**
				東北	●	下 ＋ 単語		
				関東	●	「下」＋「句」		
				北信越	○	左手は５本指(五七五七七の五行の意味) ＋ 下の２本の隣「句」を表す		
				東海	●	両手の人差し指と親指を広げて両手を重ね、下の手を前に出す		
				近畿	◎	「下」＋「№14のＢ　句」		
				中国	○	句 ＋ 下		
				四国	●	/下/　＋　/句/		
				九州		「下」＋「句」		
17	うたかい **歌会**	歌人集まって、 歌をよみあげる会。	参考：＜歌会始の儀＞2021－17	北海道		参考の通り	● 組み合わせ	９班の案を見ると、ほとんどが＜和歌＞＋＜会＞。 「歌会始の儀」（『新しい手話2015』－17掲載）では＜会＞を使っていないが、百人一首関連用語なので＜会＞をつけることに。 **⇒＜短歌・和歌＞＋＜会＞** **※北信越、東海、近畿、中国、四国、九州班の案を採用**
				東北	●	和歌 ＋ 書く ＋ 会		
				関東	●	「歌」＋「会」		
				北信越	○	(テキスト通り)		
				東海	●	「和歌」＋「会」		
				近畿	●	「和歌」＋「会」		
				中国	●	和歌 ＋ 会		
				四国	●	/和歌/　＋　/会/		
				九州		「歌」＋「会」		
18	うたまくら **歌枕**	歌によまれた地名のこと （百人一首：基本単語）		北海道	●	歌 ＋ 枕	● 組み合わせ	９班の案を見ると、ほとんどが同じ表現。意味に合うので採用することに。 **⇒＜短歌・和歌＞＋左手残して右手＜場所＞** **※東海、近畿班の案を採用**
				東北	●	和歌 ＋ 書く ＋ 場所		
				関東	●	「歌」＋「有名」＋「場所」		
				北信越	○	和歌 ＋ 場所		
				東海	●	「和歌」＋「場所」		
				近畿	●	「和歌」＋「場所」		
				中国	●	和歌 ＋ 場 ＋ 名		
				四国	ア	/和歌/　の表現の上部に/場/の手話を乗せる		
				九州		「歌」＋「有名」＋「場所」		
19	じょことば **序詞**	言葉に具体的なイメージをあたえる表現。ある言葉を導き出すために、前置きとして使う。リズムを整えたり、印象を強めたりする働きをする。 枕詞に似ているが、枕詞はほとんどが五文字に対し、序詞には長いものもある。また、枕詞は決まった使い方をするが、序詞は自由につくることができる。 （百人一首：基本単語）		北海道	●	左手「句」の下に右手で「句」二回	● 組み合わせ	「序詞」「枕詞」をあわせて検討。 「序詞」とは、言葉に具体的なイメージを与える表現、また、ある言葉を導く出すために、前置きとして使う。 また、「枕詞」は、ある特定の言葉を導き出すために、前置きとして使う。 ９班の案を見ると、＜案内・誘導＞を使う班があるが、「枕詞」で使う方が意味に合うのではないか。 「序詞」の場合は、＜思い出す＞や＜イメージ＞の案もいいが、＜過去（前）・事前＞の方が意味に合う。 **⇒＜過去（前）・事前＞＋＜句＞** **※班の案の採用なし**
				東北	●	「単語」（上）＋「単語」前に出す		
				関東	●	「思い出す」＋「音」		
				北信越	◎	連れてくる ＋ 句		
				東海	●	「導く」＋ 両手の人差し指と親指を広げて両手を重ね、上の手をつける		
				近畿	ア	左手は「和歌」で、右手は「最初」＋「和歌」の書くしぐさ		
				中国	●	イメージ ＋ 言葉		
				四国	○	左手「れ」を少し丸めた形を前向き ＋　/書く/		
				九州		「思い出す」＋「音」		
20	まくらことば **枕詞**	ある特定の言葉を導き出すかざりの語。もともとは意味のある語でしたが、やがて印象を強めたり、音のひびきを整えたりする働きをつよめるようになった。「あしびきの」、「ちはやぶる」などがある。 （百人一首：基本単語）	学校の手話－111	北海道		参考の通り	● 組み合わせ	「序詞」「枕詞」をあわせて検討。 「序詞」とは、言葉に具体的なイメージを与える表現、また、ある言葉を導く出すために、前置きとして使う。 また、「枕詞」は、ある特定の言葉を導き出すために、前置きとして使う。 ９班の案を見ると、複数案があるが＜案内・誘導＞の表現が意味に合うのではないか。 **⇒＜案内・誘導＞＋＜句＞** **※東海班の案を参考**
				東北	●	「単語」前に出す ＋「単語」（下）		
				関東	◎	「句」の右手２指の上に左手２指を乗せる ＋「音」		
				北信越	◎	定形 ＋ 句		
				東海	●	「導く」＋ 右手で「５」＋ 左手で「句」		
				近畿	ア	左手は「和歌」で、右手は「増す」＋「和歌」の書くしぐさ		
				中国		そのままでよい		
				四国	○	左手「れ」を少し丸めた形を前向き＋その上に/５音/		
				九州		「句」の右手２指の上に左手２指を乗せる ＋「音」		
21	えんご **縁語**	意味につながりのある言葉を入れて、ほかのことを思い浮かべさせる言葉。 （百人一首：基本単語）		北海道	●	縁 ＋ 言葉	● 組み合わせ	９班の案を見ると、２動作目が「言葉」「単語」「句」「語」「言う」と複数ある。 標準手話＜語＞があるので、＜縁＞と組み合わせた表現に。 **⇒＜縁＞＋＜語＞** **※関東、九州班の案を採用**
				東北	●	縁 ＋ 単語		
				関東	●	「縁」＋「語」		
				北信越	◎	縁 ＋ 句		
				東海	●	「つなぐ」＋「句」		
				近畿	●	「縁」＋「単語」		
				中国	●	想像 ＋ 言葉		
				四国	●	上下から/繋ぐ/　＋　/言う/		
				九州		「縁」＋「語」		

22	掛詞（かけことば）	一つの言葉に、同じ音をもつ、二つ以上の意味を込めて表現する方法。言葉遊びの一つで、今のダジャレにもつながるといえそう。 例：ながめ→「長雨（ながあめ）」と「眺め」、まつ→「松」と「待つ」など （百人一首：基本単語）		北海道	ア	「句」を品の動きで動かす	● 組み合わせ	９班の案を見ると、複数案あるが、＜兼ねる＞が意味に合うのではないか。 **⇒＜兼ねる・兼任・二足の草鞋（を履く）・二刀流＞＋＜言葉＞** **※北信越班の案を参考**
				東北	●	単語 ＋ 乗り換え（逆に）		
				関東	◎	「句」の右手２指の下に左手２指を足す ＋「音」		
				北信越	◎	兼ねる ＋ 句		
				東海	●	「和歌」＋ 両手で「句」を、斜め左右に下ろす		
				近畿	ア	「重ねる」＋「ことば」		
				中国		言葉 ＋ 根		
				四国	ア	/句/ の表現を両手で近づけながら表現する		
				九州		「句」の右手２指の下に左手２指を足す ＋「音」		
23	体言止め（たいげんど）	最後が名詞で終わる形。体言止めの歌は、リズムを強めて、全体を引きしめる効果がある。また、余韻をもたせることもできる。 （百人一首：基本単語）	「体言」…学校の手話－95	北海道	●	体言 ＋ 喉に手を当てて声を止める	＜体言＞ 組み合わせ ＜用言＞ 組み合わせ ＜体言止め＞ ● 組み合わせ？	まずは「体言」を検討することに。あわせて「用言」の手話も要る。 『学校の手話』－95では「体」＋かぎかっこ（「言葉」）となっているが、＜語＞でもいいのではないかとの意見があり検討。 ＜体言＞ **⇒＜体・身体＞＋＜語＞** ＜用言＞ **⇒＜必要＞＋＜語＞** 「体言止め」の９班の案を見ると、最後の部分になるほどと思われる工夫が見られる。最後・終わりの意味をどう表すか検討。 **⇒＜体言＞＋＜最低＞の終点の手形（終わりの意味）** **※四国班の案を参考**
				東北	●	書く ＋ 単語 ＋ 止め		
				関東	●	「最後（最低）」＋「句（右手だけ）」		
				北信越	◎	文字を縦書きする仕草 ＋ 末 ＋ 効果		
				東海	●	「名詞」＋「終わり」		
				近畿	○	「単語」＋ 終わるしぐさ		
				中国	✖			
				四国	●	/体言（学校の手話引用）＋上から指先を下ろし左手で止める		
				九州		「最後（最低）」＋「句（右手だけ）」		
24	倒置法（とうちほう）	主語と述語を、逆にいれかえて、意味を強めること。 （百人一首：基本単語）	「倒置」…学校の手話－101	北海道	●	倒置 ＋ 方法	＜倒置法（一般の場合）＞ ● 組み合わせ ＜倒置法（和歌の場合）＞ ● 組み合わせ	９班の案を見ると、上下入れ替える動作が、両手５指の場合と２指（句）の動作に分かれる。 ５指…一般の場合 ２指(句)…和歌の場合　それぞれに分けて検討することに。また「法」は「法律」ではなく「方法」の意味。 組み合わせなので、１回に。 ＜倒置法（一般の場合）＞ **⇒＜本末転倒（2015－72）＞の２動作目＋＜方法・手段＞（1回）** **※北海道、近畿、四国・九州班の案を採用** ＜倒置法（和歌の場合）＞ **⇒＜句＞の手形で＜本末転倒＞の２動作目＋＜方法・手段＞（１回）**
				東北	●	単語（下に下ろす）＋ 単語		
				関東	●	両手「句（２指だけ）」を上下入換える ＋「法」		
				北信越	◎	（五本指ではなく親指と人差し指で）上下入れ替え		
				東海	●	両手で「句」の後、逆にして、「方法」		
				近畿	●	学校の手話「倒置」＋「方法」		
				中国	●	言葉 ＋ 逆		
				四国	●	/倒置（学校の手話引用）＋ /方法/		
				九州		両手「句（２指だけ）」を上下入換える ＋「法」（動作は5指になっている）		
25	句切れ（くぎ）	意味やリズムが切れるところ。 （百人一首：基本単語）	＜句＞…2015－74	北海道	●	句 ＋ 切る	ア アレンジ	９班の案を見ると、左手＜句＞の下で＜切る（はさみで）＞の表現、上下に＜句＞を置いてその間を＜切る＞表現が見られる。 また、切り方も、ハサミ・／など複数ある。何で切るか？ また、切る位置をどうするか？検討。 **⇒＜句＞を上下に置き、上の＜句＞の下で＜切る＞** **※北信越班の案を採用**
				東北	●	単語 ＋ 切れ		
				関東	●	「句」＋ 左手残して手前で「切る」		
				北信越	◎	句と句の間をハサミで切る仕草		
				東海	●	両手で「句」の後、右手で間に斜めを入れる		
				近畿	◎	人差し指で斜めに切る		
				中国	●	言葉 ＋ 切る		
				四国	●	左手/句/ ＋ 右手で遮る様子		
				九州		「句」＋ 左手残して手前で「切る」		
26	本歌取り（ほんかど）	ある歌の一部をそのまま使った歌のこと。本歌をつくった人が、その歌でよんだ気持ちや、本歌の工夫を取りこむことをいう。 （百人一首：基本単語）		北海道	●	本 ＋ 利用 ＋ 歌	● 組み合わせ	９班の案を見ると、「引用」「そのまま持ってくる」「まね」など複数ある。意味からすると東海班の案が一番合うのではないか？ また、「引用」の位置、方向をどうするか？検討。 **⇒＜短歌・和歌＞の右手を斜め前で表し＋右手＜句＞をその位置から左手の下に持ってくる** **※東海班の案を参考**
				東北	●	単語 ＋ 取る（右）＋ 単語（右）		
				関東	●	「歌」を表現しそこから「句」を左斜め下へ取る		
				北信越	◎	引用 ＋ 方法		
				東海	●	身体の斜め前で「和歌」の後、右手で「句」を体の前に動かす		
				近畿	◎	右手の「コ」の形から小さい「コ」を持ってくる		
				中国	●	言葉 ＋ 取って ＋ 言葉		
				四国	●	/和歌/ ＋ そこから取って置く様子		
				九州		「歌」を表現しそこから「句」を左斜め下へ取る		
27	貝覆（かいおお）	ハマグリなどの二枚貝を二つに分けて、一対のものを探し当てる遊び。 （百人一首：歴史）		北海道	ア	つまんだ両掌の場所を入替 ＋ 遊ぶ	● 組み合わせ	「貝覆い」とは、現代の「神経衰弱」のような遊び方のこと。 ９班の案を見ると、四国班の案が意味に合うのではないか。 **⇒＜貝＞＋その手形のまま掌上向きで左右から引き寄せる** **※四国班の案を採用**
				東北	ア	「ほ」指文字（両手）＋ 右から左に合わせる		
				関東	●	「貝」を左右に開く＋「一致」＋「遊ぶ」		
				北信越	◎	二枚貝 ＋ 拾って合わせる		
				東海	●	「貝」「遊び」		
				近畿	◎	「貝」＋貝を円に並べる様子		
				中国	●	貝 ＋ 合わせる		
				四国	ア	/貝/ ＋ 両掌を上向きにして並べる様子		
				九州		「貝」を左右に開く＋「一致」＋「遊ぶ」		
28	読み札（よ・ふだ）	「絵札」と呼ぶことがあり、 ①歌人の名前、一首（上の句と下の句）、歌人の絵が入っているのが特徴 （百人一首：遊び方）		北海道	ア	左手で札を持ち右手で「読む」	● 組み合わせ	９班の案を見ると、「札」の表現が形・指差しなど複数ある。近畿班の表現がシンプルで分かりやすい。 **⇒＜読む＞＋残した左手の指先を斜め上に向けて軽く置く（片手だけの表現）** **※近畿班班の案を採用**
				東北	●	読む ＋ 左手に右人差し指を向ける		
				関東	◎	左手軽く丸めて（札）読み、左手（札）を前に出す		
				北信越	◎ ◎	(a) 左手にのせた札を読むしぐさ ＋ かるた (b) 絵 ＋ ふだの大きさを人差し指で表す		
				東海	●	「読む」「札」		
				近畿	◎	「読む」＋ 右手で札を差し出す様子		
				中国	●	読み ＋ 礼		
				四国	ア	札を持って読む様子 ＋ 札を持ってめくる様子		
				九州		左手軽く丸めて（札）読み、左手（札）を前に出す		

29	取り札（とりふだ）	「字札」と呼ぶことがあり、下の句だけがひらがなで書かれている札　（百人一首：遊び方）		北海道	ア	「かるた」の後にそのまま札を持つ形	● 組み合わせ	９班の案を見ると、「札」の表現が形・指差しなど複数ある。近畿班の表現がシンプルで分かりやすい。 カルタを取る動作が複数見られるが、標準手話＜カルタ＞を使い、片手だけで表現できるように工夫。 **⇒＜カルタ＞＋続けて指先を斜め上に向けて軽く置く （片手だけの表現）** **※近畿班の案を採用**
				東北	●	取る ＋ 左手に右人差し指を向ける		
				関東	◎	右手で札を取る仕草をしてそのまま顔の前に。		
				北信越	◎ ◎	(a)かるたを取る仕草 (b)文字 ＋ ふだの大きさを人差し指で表す		
				東海	●	「かるた」「札」		
				近畿	◎	札を取り出すしぐさ ＋ 札を差し出す様子		
				中国	●	取る ＋ 礼		
				四国	ア	/かるた/のアレンジ 左手「レ」で札を表現し　/かるた/		
				九州		右手で札を取る仕草をしてそのまま顔の前に。		
30	ちらし取り（とり）	百枚の取り札と百枚の読み札を使って遊ぶ。お座敷かるたともいう。百枚の取り札を表向きに散らかしておき、読む人は読み札を上から１ずつ読んでいく。 （百人一首：遊び方）		北海道	ア	「置く」２、３回 ＋「かるた」	● 組み合わせ	９班の案を見ると、札を散らして置く動作は、手のひらを下に向けている班がほとんどだが、上向きの方が意味に合う。 カルタを取る動作が複数見られるが、標準手話＜カルタ＞を使うことに。 **⇒両手掌を上に向けて札を散らしておくようにを動かし＋＜カルタ＞** **※北海道、東海、近畿、四国班の案を参考**
				東北	●	左手 ＋ いろいろ ＋ 取る		
				関東	◎	掌下向きの両手で札がばらまかれている様子を表してから、札を取る仕草		
				北信越	◎	札を混ぜて散らすしぐさ ＋ 取る		
				東海	●	「バラバラ」「かるた」		
				近畿	◎	札を散らかして取り出す様子		
				中国	●	並んで取る		
				四国	ア	両手で札をバラバラに置く様子　＋　/かるた/		
				九州		掌下向きの両手で札がばらまかれている様子を表してから、札を取る仕草		
31	競技かるた（きょうぎ）	全日本かるた協会が決めているルールにしたがって、かるた取りをおこなう。1940年から続いている。一対一で、50枚の取り札を使って勝負する。Ｐ136 （百人一首：遊び方）	＜かるた＞…わ9	北海道	●	「競技」＋「かるた」	● 組み合わせ	９班の案を見ると、ほとんどが同じ表現。カルタを取る動作が複数見られるが、標準手話＜カルタ＞を使うことに。 **⇒＜競技・スポーツＢ＞＋＜カルタ＞** **※北海道、東海、中国、四国班の案を採用**
				東北	●	かるた ＋ 競争		
				関東	●	「競技」＋ 札を取る仕草		
				北信越	◎	競技 ＋ かるた		
				東海	●	「競技」「かるた」		
				近畿	◎	札を並べて取り出す様子		
				中国		競技 ＋ 取る		
				四国	●	/競技/　＋　/かるた/		
				九州		「競技」＋ 札を取る仕草		
32	自陣（じじん）	競技かるた用語。 自分の競技範囲		北海道	●	「味方」＋「団体」	● 組み合わせ	「自陣」とは、自分の競技範囲のこと。 今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあわあせて検討。 **⇒＜自分自身＞＋＜囲・エリア＞** **※関東、九州班の案を参考**
				東北	◎	右（手）から曲がる		
				関東	●	「自分」＋ 指先下向きで胸の前を左から右へ動かす		
				北信越	◎	自分 ＋ 半分より手前を、人差し指と親指で示す		
				東海	◎	両手で体の前で線を引き、両手を身体の前に跳ねる		
				近畿	◎	左手で輪を作り、右手で自分の方の内側を指す		
				中国	●	線の下　並んでいる		
				四国	ア	/自分/　＋　両手で左右に配置した様子		
				九州		「自分」＋ 指先下向きで胸の前を左から右へ動かす		
33	敵陣（てきじん）	競技かるた用語。 相手の競技範囲		北海道	●	「敵」＋「団体」	● 組み合わせ	「自陣」とは、相手の競技範囲のこと。 今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあわあせて検討。 **⇒相手を指差し＋相手側の位置で＜囲・エリア＞** **※四国班の案を参考**
				東北	◎	右（手）から切る（凹む）		
				関東	●	右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす		
				北信越	◎	向こう側を、人差し指と親指で示す		
				東海	◎	両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳ねる		
				近畿	◎	左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す		
				中国	●	線の上　並んでいる		
				四国	ア	/あなた/　＋　両手で左右に配置した様子		
				九州		右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす		
34	空札（からふだ）	その場にない取り札		北海道	△	「かるた」＋「無い」	● 組み合わせ	９班の案を見ると、色々な表現があっておもしろい。 「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前向きの右手を左右に振る』動作が分かりやすい。 「札」の表現は「読み札」「取り札」と同表現を使い、分かりやすい動作を検討。 **⇒指先を斜め上に向けて置いた左手の横で右手を左右 に振り（無い）＋左手を改めて置く** **※東北、近畿、四国、九州班の案を参考**
				東北	◎	読む ＋ ない		
				関東	◎	左掌（読み札）を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手（読み札）を指さす		
				北信越	◎	空っぽ ＋ 札		
				東海	●	両手で箱(札)を手元に引き、「札」		
				近畿	◎	何もない ＋ 右手で札を出す		
				中国	●	無い ＋ 礼		
				四国	ア	左手「れ」を少し丸めた形を前向きで「札」 その上で/ない/と表現		
				九州		左掌（読み札）を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手（読み札）を指さす		
35	お手つき（て）	読まれた札が置かれている陣地とは逆の陣地の札にふれた場合　p137 詠まれた札が場にないのに札に触ってしまうこと。例えば、次のような場合が該当する。 ・詠まれた札が相手陣にあるのに、自陣に触れた場合 ・詠まれた札が自陣にあるのに、相手陣に触れた場合 ・詠まれた札が自陣、相手陣どちらにもないのに、どちらかの陣に触れた場合 お手付きをした場合、ペナルティとして相手陣から1枚札を送られる（送り札という）。 https://karutalife.sakura.ne.jp/glossary/word.php?w=a0010		北海道	●	「かるた」＋ 右掌で頭を軽く叩く(失敗)	＜しまった＞ 保存手話 ＜お手つき＞ ● 組み合わせ	９班の案を見ると、「しまった」「後悔」、手の甲をたたく、「アウト」など色々ある。審判の目線にするか、取る人の目線にするかで表現も変わる。 「後悔」というより「しまった！」の方が合うように思う。東北、九州班（両手）、四国班（片手だけ）の表現が分かりやすい。 両手にするか、片手だけの表現にするか検討。 あわせて「しまった」の標準手話が無いので、確定することに。 ＜しまった＞ **⇒＜失敗Ａ＞と同じ** ＜お手つき＞ **⇒並べてある札に手を置く動作＋＜失敗Ａ＞ ※片手だけの動作** **※四国班の案を参考**
				東北	ア	ある（左）＋「頭にしまった」しぐさ（右）		
				関東	◎	場を１回叩き、相手を指さして「アウト」		
				北信越	◎	左手で右手を叩く仕草		
				東海	◎	「かるた」「失敗」		
				近畿	◎	札に触れて、しまったという動作		
				中国		取って ＋ 後悔		
				四国	保	手を出したあと、すぐさま額にその手を当てる		
				九州		場を１回叩き、相手を指さして「アウト」		

36	源平合戦（げんぺいかっせん）	二つのチームに分かれて行う。 （百人一首：遊び方）		北海道	●	「赤」＋「白」＋「喧嘩」	● 組み合わせ	９班の案を見ると、 「源平」…紅白、左右に向き合う、左右に分かれるなどがある。 「合戦」…＜試合＞＜戦争＞＜けんかＡ・太刀打ち＞などがある。 「試合」にするか「戦争」にするかで意見が分かれたが、北信越班の、二手（ふたて）に分かれて＋＜戦争＞ の手話がいいということに。 **⇒＜分かれる・隔離＞＋＜戦争＞** **※北信越班の案を採用**
				東北	ア	かるた ＋ 作戦		
				関東	◎	両手を立てて向い合せる ＋「試合」		
				北信越	◎	二手に分かれて ＋ 戦争		
				東海	●	両手で「５０」を左右に前に突き出し、「かるた」		
				近畿	●	「赤」＋「白」＋「合戦」		
				中国		分けて ＋ 勝負 or 試合		
				四国	●	両手で左右に/場/ ＋ /試合/		
				九州		両手を立てて向い合せる ＋「試合」		
37	坊主（ぼうず）めくり	取り札を使わない。お坊さん、女性、男性をめくって見分ける遊び。 （百人一首：遊び方）		北海道	ア	「禿」＋ 両手で札をめくり重ねて引き寄せる	＜坊主＞ 保存手話 ＜坊主めくり＞ ● 組み合わせ	９班の案を見ると、ほとんどが同じ表現だが、「坊主」の表現が微妙に異なる。また、「札をめくる＋運」も意味を考えた表現で面白い。 「坊主」は以前から使われている表現があるので、それを採用することに。（標準手話のラベル無し） ＜坊主＞ **⇒右手掌で頭を前から後ろへなぞる** ＜坊主めくり＞ **⇒＜坊主＞＋札をめくる動作** **※東北、東海、近畿・九州班の案を採用**
				東北	ア	坊主 ＋ 成る		
				関東	●	場の札をめくる仕草 ＋ 頭をなぜる ＋「遊び」		
				北信越	◎	坊主 ＋ 札をめくる仕草		
				東海	◎	「坊主」＋ 札をめくる仕草		
				近畿	ア	「坊主」＋ 札をめくる動作		
				中国	●	取って ＋ 運		
				四国	●	頭を丸めた様子 ＋ めくる		
				九州		場の札をめくる仕草＋頭をなぜる ＋「遊び」 （動画では「坊主＋札をめくる」となっている）		
38	文（ぶん）	『わたしたちの手話（５）』－43 に標準手話あり。そのままとするか、新しい表現を加えるかご検討ください。		北海道		変更なし	そのまま	９班の案を見ると、標準手話のままでよいとしているため変更なしとするため、動画は出さない。
				東北	●	文		
				関東		「文」		
				北信越	保	(テキスト通り)		
				東海		「文」(そのまま)		
				近畿	×	標準手話でＯＫ		
				中国		そのままでよい		
				四国	×	/文/		
				九州		「文」		
39	節（ふし）	標準手話なし 文を構成する、述語とその項からなるまとまりのことで、その中でも特に定形のものだけを指す。 （ウィキペディア） 内部構造上。文または文に近い表現で、文の要素として含まれる単位。名詞節・形容詞節・副詞節などがある。（広辞苑）		北海道	ア	両手「句」を上下に置き、上下に離す	＜節＞ △ ラベル追加 ＜文節＞ 組み合わせ ＜音節＞ 組み合わせ	９班の案を見ると、色々な表現があり、工夫の跡が見られる。＜句＞を使う班もあるが＜複合語＞＜熟語＞などもあり、区別できる表現がほしい。近畿班の案が合うのでは。 **⇒＜節目＞と同じ** **※近畿班の案を参考** あわせて「文節」「音節」も必要であり検討することに。 ＜文節＞ **⇒＜文＞＋＜節目・節＞** ＜音節＞ **⇒＜音（おと＞・音（おん）＞＋＜節目・節＞**
				東北	◎	文 ＋ 文 ＋ 文		
				関東	◎	左手「句」の下で右手「句」を数回下ろしていく		
				北信越	◎	句 ＋ 句(縦に表現)		
				東海		指を斜めに下ろす		
				近畿	ア	「節目」の節の部分のみ		
				中国	✖			
				四国	◎	両掌を上下に向い合せ　区切りを表現する		
				九州		左手「句」の下で右手「句」を数回下ろしていく		
40	言葉（ことば）	『わたしたちの手話(5)』－52、『新しい手話Ⅰ』－44 に標準手話あり。そのままとするか、新しい表現を加えるか検討してください。		北海道		変更なし	そのまま	９班の案を見ると、標準手話のままでよいとしているため変更なしとするため、動画は出さない。
				東北	●	言葉		
				関東	◎	「言う」＋「句（２指だけ）」		
				北信越	保 保	(a)テキスト通り (b)口元で両手の人差し指を前後		
				東海		「言葉」(そのまま)		
				近畿	×	標準手話でＯＫ		
				中国		そのままでよい		
				四国	×	/言葉/		
				九州		「言う」＋「句（２指だけ）」		